

わたしのものがたりを語ろう。

原発事故避難者のPTSD

— 一人ひとりの311 —

2020 **3.1(日)** 13:00~17:00 (12:30 開場)

場 所 **おかやま西川原プラザ 大会議室**
(岡山市中区西川原255番地)

講 師 **蟻塚 亮二氏** (福島県相馬市「メンタルクリニックなごみ」院長)

災害や大事故、戦争や犯罪など、生命の危険性が高い出来事に伴うストレス障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)。原発避難者の発症リスクを調べた調査では、他の災害に比べ、精神的影響が高い結果がでています。経済的な困難、仕事、家族、人間関係。ふるさとの喪失や分断。孤立。事故のトラウマそのもの以外にも様々な要因があげられます。精神的なケアに注目されることが多いPTSDですが、根底にあるさまざまな社会的要因を理解し、解決の糸口をみなさんと探る学びの機会にします。

後半は、参加者みなさんとともに、「わたしのものがたり」をテーマに、聴きあい語りあいのワークショップを開催します。

蟻塚 亮二(ありづか りょうじ)氏
プロフィール：1947年福井県生まれ。72年、弘前大学医学部卒業。青森県弘前市の藤代健生病院院長を務めた後、2004年から13年まで沖縄県那覇市の沖縄協同病院などに勤務。13年から福島県相馬市の「メンタルクリニックなごみ」院長を務める。著書に『沖縄戦と心の傷 ト라우マ診療の現場から』(岩波書店、14年)、共著『3・11と心の災害—福島にみるストレス症候群』(大月書店、16年)、『「助けて」が言えない』(松本俊彦編、日本評論社、19年)、『戦争とところ』(沖縄戦・精神保健研究会編、沖縄タイムス、17年)、『闘うことは生きること~原発事故避難者のPTSD』(雑誌『世界』、20年1月号所収)、『泣くことと悲しむことの価値~福島の再生を目指して』(雑誌『Journalism』20年2月号所収)

東日本大震災、原発事故からまもなく9年が経とうとしています。大規模な自然災害や原子力災害は、私たちにどのように影響し、何が問題であるのか一緒に学びながら学びませんか？この経験は、明日の私のことなのかもしれないから。

今年度も引き続き、さまざまな有識者による「知る」機会をシリーズで設けています。ぜひお気軽にご参加ください。

- 日時 ● 2020.3.1 (日) 13:00-17:00 (12:30 開場)
- 場所 ● おかやま西川原プラザ 大会議室 (岡山市中区西川原255番地)
- 参加費 ● 一般：500円、避難者：無料
- 定員 ● 100名(要申込) * 締切：2/25
- 内容 ● 1. 講演「原発事故避難者のPTSD—一人ひとりの311—」

講師：蟻塚 亮二 氏

2. 聴きあい語りあいのワークショップ

参加者のみなさんと東日本大震災・原発事故のことを語りあいます。私たちはそれぞれの場所でこの経験から何を感じてきたのか、お互いの体験や思いに耳をすませ、語りあい、ともに希望を語りあいましょう。

- お申込 ● 電話・ファクス・メールにて、次の①～④をお問合せの上、一般社団法人ほっと岡山までお申し込みください。(メールの場合は、件名「311スタディーズ参加申し込み」)
- ①代表者氏名 ②連絡先(メールもしくは電話)
- ③参加者氏名(託児をご希望の方はお子様のお名前・年齢) ④避難・移住者の方はお知らせください。
- 電話：0120-566-311 (月～金/10～17時)
- ファクス：086-230-4561
- メール：hotokayama@gmail.com

主催 ● 一般社団法人ほっと岡山



令和元年度福島県外避難者帰還・生活再建支援補助金

お申し込み方法

連続勉強会311スタディーズ vol.13 + 聴きあい語りあいのワークショップ

一般社団法人ほっと岡山

①お名前 (代表者)		④避難・移住者の方ですか? はい ・ いいえ	
②連絡先 (メールもしくは電話番号)			
E-mail		TEL	
③託児希望のお子様のお名前		年齢 (お子様)	託児をご希望の場合、アレルギー等の連絡事項がございましたらお書きください。
		才	
		才	
		才	

※ご記入いただきました個人情報は適切に管理し、本事業のみに使用いたします。